（資料）

REFRANERO ESPANOL (27)
スペインの諺辞典

Bernardo Villasanz*
新　井　藍　子**

1113. No hay comida buena a que no siga mala cena.
豪華な昼ごはんの後には　貧しい晩ごはん来(きた)る

－ 贅沢な暮らしを続けていると，いつかは切り詰めた生活をしなくてはならぬ羽目におちいることをたとえている。（バロス）

－ 同義の諺には“A la noche convida, a la mañana porfía. 夕に馳走し，朝に乞う”（筆者の諺辞典，諺 35 を参照），“Buen comer trae mal comer. 今日のごちそう，明日の飢え”（同辞典，諺 163 を参照），“El día del placer, víspera es del pesar. 今日の快楽は，明日の苦痛”（同辞典，諺 406 を参照），“Día de mucho, víspera de nada. 今日の浪費は明日の無一物”（同諺 406 を参照）など，いずれも限度を越えた浪費が，貧困をもたらすことを謳う。逆に次の諺“El día de ayuno, víspera es de santo. 今日の断食，明日の祝日”（同諺 406 を参照）は，現在，一生懸命働いて倹約すれば，将来は豊かになるとたとえている。

－ 日本にも同じような諺がいくつかある；“楽しみの後には苦しみ来(きた)る”，“上り大名下り乞食”，“驕る者は久しからず”，“昨日の花は今日の夢”など，いずれもいいこ

* Edición y revisión. Facultad de Humanidades. Universidad de Fukuoka.
** Profesora de español en la Universidad de Fukuoka (Facultad de Humanidades).

とはいつまでも続かないと言っている。

1114. No hay contento cumplido en este mundo mezquino.
この惨めな世では　満足しきることはない

－ 決して全てに満足できないのが，人間の性(さが)であるから。(バロス)
－ 類義の諺には“En este mundo cansado, ni hay bien cumplido ni mal acabado. この厄介な世では，幸福は長続きしないし，不幸は終らない”(筆者の諺辞典，諺546を参照)，“No hay cosa firme ni estable en esta vida y mundo miserable. この哀れな人の世には，確固たるものはひとつもない”，“No hay gozo cumplido : que tan presto es menguado como venido. 完璧な喜びなどはない，来たときと同じように素早く行ってしまうから”などがあり，人の世の無常，有為転変，不確かさを謳う。このような“もののあわれ”をうたう心情は昔から日本人にもあった，“月みつれば欠く”，“日中すればかたむく”，“無常の風は時を択ばず”，“浮生(ふせい)夢の如し”など，いずれも人の世の栄枯盛衰，命のはかなさなどをたとえている。

1115. No hay cosa más barata que la comprada.
買うものほど　安いものはない

－ 人にものを貰うということは，その人に恩義を感じたり，或いは，借りをつくることになるから，高くつく。(バロス) 異表現には“No hay cosa más barata que la que se compra. 同訳”がある。
－ 同義の諺には“Más caro es lo dado que lo comprado. 物を貰うは，買うより高い”(たいていの場合，貰ったもの以上の事をして上げなくてはならなくなるから。－筆者の諺辞典，諺833を参照)，“Lo malo, de balde es caro; lo mejor es más barato. 悪くてただの物が高い，最上の物がいちばん安い”(同辞典，諺740を参照)，“Muy caro compra el que recibe, y más caro vende el que da a quien lo agradece. もらう者は，とても高く買うことになる，あげる者は，感謝されるなら，とても高く売ることになる”(同辞典，諺1013を参照) などがある，いずれも，日本でもよく使われている“ただより高い物はない”，“物を貰うはただより高い”，“買うは貰うに勝る”などの諺と全く同じである。
－ “貰う”に関連した次のような諺もある；“No hay cosa más dulce que el recibir,

ni más dura que el pedir. 貰うほど心地よいものはなく，ねだるほど大変なものはない”ここでは“貰う”と“ねだる”を対比させている，また，“Más vale dar a ruines que rogar a buenos. 貧しい者に施す者は，金持ちにねだる者に勝る”（筆者の諺辞典，諺 870 を参照），“Más vale dar que recibir. 与えるは貰うに勝る”などの諺は，“上げる”と“貰う”を対比させている。また，“ドン・キホーテ”（第二部 58 章）には，次のような諺“Los que reciben son inferiores a los que dan. 貰う者は，上げる者より劣っている”が見いだされる。

1116. No hay cosa que canse más que el trabajo, si no es el holgar.
何もしないでいるほど　疲れる仕事はない

- 無為に過ごすほど人に疲労を感じさせることはないということ。
- 次のような異表現“No hay cosa que más canse que el trabajo, y también suele cansar el holgar; mas sobre todo cansa un negocio que mucho habla. 仕事くらい疲れるものはない，また，たいてい何もしないのも疲れるものである，だけど特に疲れるのは，たくさん喋らなければならぬ商売である”がコレアス諺集に，“No hay cosa que a la larga canse más que no hacer nada. 何もしないことほど，最終的に疲れさせるものはない”（暇つぶしは，仕事をしているよりずっと退屈であると，遊んで暮らしている友人たちを納得させるために言う。－スバルビィ）がスバルビィ諺辞典にそれぞれ収載されている。
- 長い間働かない怠惰な生活に疲れる者は，勤勉な性分である，根っからの怠け者はどちらかというと“乞食を三日すれば止められぬ”（怠惰な習慣は，一度身につくとなかなか抜けられないというたとえ）のほうではないだろうか。疲れると感じるより，のらくらしてるのが気楽でいいと感じる。また，反対に，日頃仕事に忙しい者は，その合間に暇を作ってはゆったりとくつろぐ，その時に感じる喜びは格別なものがあろう。“忙中閑あり”という諺からはそのような気持ちが伝わってこないだろうか。

1117. No hay cosa que más descontente que estar y vivir entre ruin gente.
卑しい人々と一緒に　生きるほど　不愉快なことはない

- バロスによると，類義の諺には“El peor mal de los males es tratar con animales.

厭なことの中でも一番厭なことは，けもののような人たちと付き合うことである”がある。標題にでてくる“ruin gente”は，“mezquino-卑しい，avariento-けちな，強欲な”まともな人間は，こういう“ruin”にはとうてい太刀打ちできないことを言う諺もある，“A ruin, ruin y medio. 卑しい者には，同じように卑しい者か，もっと卑しい者を”（卑劣な者と交渉しなければならない時は，同等の者か，それ以下の者とさせるのがいい－スペイン王立アカデミー辞書）

－ まともな者は，そうでない者と付き合うのはとても苦痛であるということ。

1118. No hay cosa que menos cueste ni valga más barata que los buenos comedimientos.
礼儀正しさほど　金がかからず　安くつくものはない

－ お金がかからずに，人から好感をもたれる一番良い方法は，丁寧な言葉づかいと礼儀正しい振るまいであるということ。

－ コレアス諺集には，次のような同義の諺が見られる；“Cortesía de boca, gana mucho a poca costa. 丁寧な言葉遣いは，らくらくと人の信頼を得る”，“Cortesía es bien hablar, cuesta poco y mucho val. 同訳”，“Cortesía de boca, mucho val, y poco costa. 同訳”

－ 例題：ドン・キホーテ第二部 36 章，妻のテレーサに手紙を書いたサンチョは，その中で公爵夫人がそなたの手に千度接吻して下さるから，そなたは二千度お返しなされ，何故なら，“...que no hay cosa que menos cueste ni valga más barata, según dice mi amo, que los buenos comedimientos. 主人が口ぐせに言うとおり，世の中に礼儀作法のただしさほど銭(ぜに)がかからず安くつくものもないゆえにそろ。”（続編二，永田寛定訳）

1119. No hay cosa tan ligera para huir como la vida.
人生ほど　軽々と逃げていくものは　ない

－ はかなく，すばやく消えていく人生をいうことば。

－ 例題：セレスティーナ第 16 幕，メリベアの父親，プレベリオは娘のことが気がかりでならない，娘の結婚を早めに準備しなくてはならぬ，何故なら“No hay cosa tan ligera para huir como la vida. 人生ほど過ぎ去るに軽やかなものはない。”（魔女セ

レスティナ，大島正訳）

－ 昔から，また，あらゆる所で人生のはかなさほどいろいろなものに比べられるものはないだろう；“朝に紅顔ありて夕べに白骨となる”，“あだし野の露鳥辺野の煙”（露も煙もはかなく消えることから，人生のはかなさをいう。標題のスペインの諺の表現にも通じる），“風の前の塵”，“風前の灯火”，“朝顔の花一時”，“胡蝶の夢”（荘子）など。

1120. No hay estómago que sea un palmo mayor que otro.
誰の胃も　似たりよったりの　大きさ

－ 誰もかれもそんなに違いはないということ。（スバルビィ）

－ 例題：ドン・キホーテ第二部33章，従士サンチョと太守サンチョもそう違いはない，人間は皆同じでそう変らない，どこもかしこも似たりよったり，といくつもの諺を使ってサンチョが公爵夫人に説明する，“..., y no hay estómago que sea un palmo mayor que otro; ひとより五寸でけえ胃袋はねえし，...”（続編二，永田寛定訳）注：“palmo-長さの単位。手を開いて親指の先から小指の先までの長さ。人の胃の大きさが同じくらいなら，それを収めている人間の器にもそう違いがないという意－筆者”

－ 類義の諺には“Cuál más, cuál menos, toda la lana es pelos. 多かろうが少なかろうが，あらゆる羊毛は毛でできている”（どれも平凡でつまらないものばかりなので，優劣をきめるのが難しいことのたとえ。－筆者の諺辞典，諺324を参照），“En ruin ganado poco hay que escoger. 貧弱な家畜の中では，ほとんど選びようがない”（けちなもの同士にはほとんど違いがない－同辞典，諺324を参照），“Tan presto va el cordero como carnero. 子羊は，雄羊のように素早くいなくなる”（何かに優れていることを見せてくれるまでは，人は誰もかれも同じようである－バロス）などがある。

－ 類義の日本の諺には“どんぐりの背比べ”，“五十歩百歩”，“どこの烏も黒い”などがある。

1121. No hay hombre sin hombre.
人がいなければ　人は存在しない

－ 人間が生きていくための全ての事柄には，他の人間の助けが必要である。（バロス）

どんな人間でも一人では生きていけない，お互いの助け合いで初めてわれわれは存在できるという至極当たり前なことを言っているが，利己中心に生きている者には戒めとなる諺。

－ 人（hombre）とか男（hombre）についての諺が次のようにコレアス，バロス諺集に見られる；“No hay hombre para hombre. 男には，他の男は存在しない”（勇猛果敢な男は，あらゆることをしかねない－バロス），“No hay hombre sin nombre ni nombre sin renombre. 名前のない人は，いない，また，評判が悪ければ，名前がないと同じ”（誰にも相手にされない－筆者），“No hay hombre cuerdo a caballo ni colérico con juicio. 馬上の男で分別があるものはいない，また，分別があって怒っている男もいない”（馬を駆っている男は，多かれ少なかれ理性を失う，また，怒っている男も分別を失う－筆者）

－ 人というものは，ある時には，他者に助けの手を差し出したり，また，ある時には他者の足を引っ張ったりする。そういう相反する行動を取るのが人である。そういう複雑な人を謳う諺はこちらにも多数ある；“測り難きは人心”，“分からぬは夏の日和と人心”，“人は知れぬもの”，“人の心は面の如し”（人の顔がそれぞれ違うように，人の心もみな異なっているということ）など。

1122. No hay libro tan malo que no tenga algo bueno.
どんなに悪い本でも　何かしら良いところがある

－ どんなに悪い本であろうとも，少なくとも書かれたその時代の証人にはなってくれる。（スバルビィ）

－ イリバレン（El porqué de los dichos）によると；“セルバンテスが二回＜ドン・キホーテ，第二部＞で引用しているこの諺は，ラテン語の格言“Nullus est liber tam malus ut non aliqua parte prosit.”に拠るものである。ディエゴ・クレメンシン（Diego Clemencín－スペインの文献学者であり政治家，1765－1834－筆者）は，キホーテの評論の中でこの格言は，大プリニウス（古代ローマの博物学者－筆者）が言ったことばで，それを後に，甥の小プリニウス（古代ローマの政治家－筆者）が彼の書簡集で用いたのである，と書いている。”

－ 例題１：ドン・キホーテ第二部３章，本を無造作に書くやからがいると批判したキホーテに，“-No hay libro tan malo-dijo el bachiller-, que no tenga algo bueno. ＜よ

いところがまるでないほど，わるい本もありませんよ＞と，得業士が言った。”（続編一，永田寛定訳）

－ 例題２：ドン・キホーテ第二部 59 章，ドン・キホーテとサンチョが泊まった街道宿の部屋の隣から，二人の騎士と思われる男二人の会話がもれ聞こえた；＜ドン・キホーテ・デ・ラ・マンチャの一冊目を読んだ者に，続編が面白いはずがないじゃないかね＞，“－Con todo eso－....., será bien leerla, pues no hay libro tan malo, que no tenga alguna cosa buena. 読むぐらいはかまわないでしょう。読んでなんのためにもならないような書物はないですものね。”（続編三，高橋正武訳）注：高橋正武の注 160 によると，ここにでてくるドン・キホーテの“続編”とは，1614 年 7 月に出たアベリャネーダの偽作“続ドン・キホーテ”を指す。この頃は，セルバンテスが“続編（第二部のこと）第 59 章”を書いているころであろう。アベリャネーダの偽作はセルバンテスに衝撃を与えたようで，本物の続編（第二部）の完結が急がれたといわれている。ちなみに，ドン・キホーテの第一部が出たのが 1605 年で，第二部は 10 年後の 1615 年に出た。第二部のドン・キホーテでは，セルバンテスみずから第一部のドン・キホーテの批評をしている。また，同時に世間の評判，人気の高さなども取り上げている。セルバンテスも予期していなかったほどこのドン・キホーテの第一部に対する評判はすばらしかった。

1123. No hay lugar tan alto que un asno cargado de oro no suba.
黄金を積んだロバが　登れぬほどの高いところはない

－ 金さえあれば出来ないことはないと，金の威力をたとえている。

－ すでに見てきたが，同義で“Asno con oro, alcánzalo todo. 黄金を積んだロバは，何でも手に入れる”（筆者の諺辞典，諺 97 を参照），“El dinero es caballero. 金持てば殿様”（同辞典，諺 420 を参照），“No hay cerradura, si es de oro la ganzúa. もし，こじ開け道具が金なら，閉める鍵はない”（同諺辞典，諺 1112 を参照），“Un asno cargado de oro sube ligero a una montaña. 黄金を積んだロバは，らくらくと山を登る”などの諺がある。

－ 例題：セレスティーナ第 3 幕，惚れている女をとりもつことで，できるだけたくさんの金を巻き上げようと企んでいるセレスティーナのせりふ，“Todo lo puede el dinero; las peñas quebranta, los ríos pasa en seco; no hay lugar tan alto, que un

asno cargado de oro no le suba. 人間万事金の世の中さ。お金は岩をも砕き，乾いたままで川をも渡る。黄金を積んだ驢馬が登りきれぬほどの高いところはないもんよ。”（魔女セレスティナ，大島正訳）

1124. No hay luz mejor que de la mañana, ni comer que a buena gana.
朝の光ほどすばらしいものはないし
おいしく食べる食事ほどすばらしいものはない

- 両方とも健康に良いということ。朝早くのすがすがしい空気と日の光の下で仕事をするのは何とも心地よいものである，また，朝食前の一働きで健全な食欲がわき，どんなものでもおいしく感じられる。幸せな一日の始まりを予感させる諺。
- 類義の諺には“Donde entra el sol no entra el médico. お日さまが入るところには，医者は入らぬ”（筆者の諺辞典，諺 435 を参照），“Más ayuda la mañana que prima y hermana. 午前が，いとこや姉より手伝ってくれる”（仕事をするにはその時間が最適である－バロス，どんな仕事でも午前中がはかどる－コレアス，筆者の諺辞典，諺 831 を参照のこと）
- まさに，健康志向の現代で言われていることは，早朝の日光浴と，本当にお腹が空いておいしく食べる食事の薬効である。日本の諺で，健康に関しては，“大根おろしに医者いらず”，“朝茶は福が増す”，“朝茶はその日の難のがれ”，“秋刀魚が出ると按摩が引っ込む”，“蜜柑が黄色くなると医者が青くなる”，“柿が赤くなると医者が青くなる”，“腹八分目に医者いらず”などがある。

1125. No hay mal tan lastimero como no tener dinero.
金がないほど　哀れな不運はない

- 物質的な財産の欠乏は，いろいろな災いをもたらす原因となる。（スバルビィ）
- お金に対する渇望は多くの人が持っている。（コレアス）
- 類義の諺には“No hay más amigo que un duro. お金以上の友はいない”（人が金を大事に思う気持ちをいう－バロス）がある。“duro-以前スペインで使用されていた 5 peseta 硬貨”同じ“duro”でもこの単語には“けちな”という意味があるが，何も持っていない者より，金を持っているけちなほうがまだましであるという次のよ

うな諺もある，“Más da el duro que el desnudo. ケチのほうが，丸裸よりくれる”（筆者の諺辞典，諺 836 を参照），“Más da el duro que tiene, que franco que no tiene. 金持ちのケチのほうが，貧乏な気前のいい者よりくれる”ドン・キホーテ・デ・ラ・マンチャの中でサンチョがこの世には二つの血筋しかないと言っている。即ち，持っている者と，持っていない者と。持っている者にとっては，“No hay placer tan halagüeño como tener mucho dinero. 金を持っているほどうれしい喜びはない”となるし，また，この世には“No hay rico necio ni pobre discreto. 愚かな金持ちも，利口な貧乏人にもいない”（金があるだけで尊敬され，金がないと馬鹿にされるから－筆者）となる。

－ こちらにも持たない者の悲哀を言い表す諺がある，“敵（かたき）の金でもあれば使う”，“貧すれば鈍する”，“貧には知恵の鏡も曇る”など。

1126. No hay más bronce que años once, ni más lana que no saber qué hay mañana.
若さにはたくましさ　老いには明日を思い煩わぬ平安

－ それぞれの世代にのみあるということ。（筆者）若者は，強靭で疲れを知らない，しかし，もう若くない者に訪れる落ち着きと平安は，彼らにとって最上の財産である。（バロス）

－ ここでは，二つの比喩“bronce-lana”を用いて“強靭－若さ，財産－老い”を表現している。“bronce-青銅，ser de bronce-ser robusto e infatigable en el trabajo. がっしりした，強靭な，仕事に疲れを知らぬ”“lana-羊毛，そこから，毛を刈り取った後の蓄積，財産の意，羊は穏やかさ，平安の象徴”

－ 標題の諺では，11 歳が“edad de bronce－強靭な年”と言っているが，論語の中で孔子は“十五にして学を志す”と言う，そこから“志学の年”という言葉がでた。先の言葉に続けて，孔子は“三十にして立つ。四十にして惑わず。.....七十にして心の欲する所に従えども矩（のり）を踰（こ）えず”と言う。年が若いということは，肉体的，精神的な強さをいうのであろう，何事に対しても意欲と情熱が強いが，老年になるとそういう欲望も衰えてきて心安らかな境地に達するのである。

1127. No hay mayor desprecio que el no hacer aprecio.
無視されるほどの　侮蔑はない

－ 人が本当に傷つけられるのは，他者から無視されることである。（バロス）
－ “no hacer aprecio de ＜algo＞－＜何か＞を意に介さない，気に留めない。
－ 誰からも顧みられない寂しさ，孤独をいう。学校，職場，家庭など，人が寄り集まるところでは必ずいじめがあるが，無視されることが一番辛いいじめであるという。

1128. No hay mejor bocado que el hurtado.
盗んだたべものほど　おいしいものはない

－ 合法的に手に入れるより，他者のものをかすめとることに非常な喜びを感じるのは，悪に傾きがちな人の本能である。（スバルビィ）
－ すでに見てきたように多くの格言，諺が，旧約聖書にその典拠を求めることが出来るようにこの諺にも同じことが言えると思う。箴言（９－17－18）には，標題の諺と同じ主旨の次のような文が見いだされる；“El agua robada es más sabrosa ; el pan comido a escondidas sabe mejor. 盗んだ水は甘く，隠れて食べるパンはうまいものだ。”
－ 必要に迫られてではなく，快楽で盗みをするのも盗人（ぬすっと）の言い訳にはなる。こちらにも“盗人（ぬすびと）にも三分の理”，“泥棒にも三分の理”などの諺がある。どんなに筋が通らないことにも理屈はつけようとすればつくものであるということのたとえで，スペインの諺にも通じるところがある。

1129. No hay mejor cirujano que el que ha sido acuchillado.
手術を受けて　良医となる

－ 以前同じような経験をした者ほど，その事柄に精通している者はいないというたとえ。経験が如何に大切であるかを言う諺。
－ コレアス諺集には，標題の表現と共に，異表現で“No hay mejor cirujano que el bien acuchillado. 同訳”，また，コバルビアスの宝典には“No hay mejor cirujano que el bien acuchillado. 同訳”がそれぞれ収載されている。
－ こちらの同義の諺には“三度肘を折って良医となる”がある。苦労を重ね，経験を積

んで人は円熟した技に達する。また，同じ病気に苦しんだことのある医者は患者の痛み，辛さなどもよく分かる。

1130. No hay mejor espejo que el amigo viejo.
旧友ほど　良い鏡はない

－ 長年の付き合いがある友人というものは，相手にとって耳が痛いようなことでも，本当のことをはっきり言って相手を騙したりするようなことはしないから。（スバルビィ）旧友というものは，真実を言えるだけの権威と信頼があるので。（バロス）
－ コレアス諺集には，標題の諺と共に，異表現で“No hay mejor espejo que el ojo del amigo viejo. 旧友の眼（まなこ）ほど良い鏡はない”がある。
－ コバルビアスの宝典には類義で“El buen amigo es espejo del hombre. 良き友は，人の鏡”（鏡は真実の友の象徴である，こういう友は，相談されたことに本当のことを言ってくれる。－コバルビアス）
－ 日本には，“子供は大人の鏡”（子供は大人の姿や生き方を反映するから，子供を鏡として生きていかねばならぬ－ことわざ辞典，岩波），“子供は大人を映す鏡”などの諺がある。いずれにしても，鏡は嘘をつかない，時には恐い存在である。こういう諺をセレスティーナ（第 4 幕）が口にする，“¿No has leído que dice <verná（vendrá-筆者）el día que en el espejo no le conozcas?> 鏡をながめたる時汝自身と，判らぬ日が来るだろう，という諺をお読みではございませぬか？”（魔女セレスティナ，大島正訳）

1131. No hay mejor maestro que necesidad y pobreza.
暮らしに困ることと　貧乏ほど　すぐれた師はない

－ 貧困によって人がせざるをえない事は，その人に一生忘れられないようなことを教えてくれるものである。（スバルビィ）注：スバルビィ諺辞典には，“No hay mejor maestra que necesidad o pobreza. 困窮，或は，貧困ほどすぐれた師はない”が収載されている。
－ 同義の諺には“La mejor maestra, la hambre. 最良の師は，飢えである”がある。食べ物を得るためには，知恵を働かせなければならない，それがたとえ悪知恵であっても。また，類義の諺には，“La necesidad hace maestros. 窮乏が名人を作る”

（筆者の諺辞典, 諺 1032 を参照），“La necesidad es grande maestra de invenciones. 窮乏は，発明の大師匠”，“La necesidad es gran inventora. 窮乏は偉大な発明家”，“La necesidad es maestra de sutilizar el ingenio. 窮乏は，才智を研ぎすます師匠”，“De la necesidad nace el consejo. 食うに困るといい知恵が浮かぶ”，“La necesidad aguza el ingenio. 食うに困ると，才智が鋭くなる”などがある。

－ 例題：セレスティーナ第 9 幕，金持ちの殿の使用人二人に心にもないお世辞を使っているセレスティーナ，いったい誰がそんなさもしいことを教えたのか分からないと言う一人に“La necesidad y pobreza, la hambre, que no hay mejor maestra en el mundo, ...それは暮らしに困るということと，貧乏，それに腹がへるからさね。ことに，この飢えというやつより秀れた師匠は，この世にはいないんだぜ。…（魔女セレスティナ，大島正訳）

－ こちらには“貧すれば鈍する”，“人貧しければ智短し”などがあり，スペインの一連の諺とは反対のことを言っている。